

第2学年 音楽科学習指導案

は組 男子 18 名 女子 17 名 計 35 名

指導者 渡 邊 健 二

1 題 材 うたってあそぼうⅡ

教材 「メッセージ」 杉本 隆一／作詞・作曲

◎ 外国のあそびうた

「かくれんぼ」 林柳波／作詞 下総 皖一／作曲 (本時主教材)

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

これまでに子どもたちは、第1学年題材「うたってあそぼうⅠ」において、伴奏に合わせて歌ったり、体を動かしたりする活動を通して、拍の流れを感じ取りながら友達と一緒に表現する楽しさを味わってきている。さらに子どもたちは、友達の声を聴いたり、友達と声を揃えたりして歌ったり、音楽に合わせて体を動かしたりしたいという欲求が高まってきている。

そこで、本題材では、歌詞の表す様子を思い浮かべたり、音楽の特徴に気付いたりしながら歌う活動を通して、友達の声や伴奏を聴きながら、友達と一緒に声を合わせて歌う能力を育てるとともに、拍の流れにのって表現しようとする態度や、音楽を「問いと答え」、「速さ」、「リズム」、「強弱」といった視点で捉え、情景や気持ちに合った歌い方を工夫し、自分なりに音楽の楽しさを見いだしたりする能力を高めることをねらいとして、本題材「うたってあそぼうⅡ」を設定した。

ここでの学習は、友達の声や伴奏を聴いて、発声に気を付けながら声を合わせて歌う能力を育てる3年生題材「歌声合わせてⅠ」の学習へと発展していくこととなる。

(2) 指導の基本的な立場

友達の声や伴奏を聴きながら、友達と一緒に声を合わせて歌う能力を高めるためには、友達の声や伴奏をよく聴いて、リズムや拍の流れを感じ取りながら、心を合わせて歌う楽しさを味わえるようにすることが効果的である。特に、この期の子どもたちには、体の動きを伴った活動や互いに聴き合う活動を通して、友だちの歌声や伴奏の響きを聴きながら、自分の歌声を意識し、表現の面白さや喜びを味わうようにすることが大切である。

そこで、本題材の展開に当たっては、様々な楽曲を聴いたり歌ったりしながら、音楽を「問いと答え」、「速さ」、「リズム」、「強弱」といった要素で捉え、楽曲の楽しさを見いださせたり、歌詞が表す様子を想像しながら自分が表したいイメージと音楽を形づくっている要素を関連づけて表現させたりすることが大切である。また、自分の歌声に気を付けて歌ったり、友達と一緒に声を合わせて歌ったりしながら協働して音楽活動に取り組む態度を育てることが大切である。

具体的には、まず、「メッセージ」を取り上げる。この曲は、歌の部分と話し言葉の部分が問いと答えになっており、互いの声を聴き合って表現するのに適している。そこで、ここでは、歌の部分と話し言葉の部分に分かれて聴き合うことで、声を合わせて歌う楽しさを味わえるようにする。

次に、「外国のあそびうた」で「ロンドンばし」と「小犬のビンゴ」の2曲を取り上げる。これらの曲は、遊びの様子を思い浮かべながら聴いたり、諸外国の遊び歌に親しんだりするのに適している。そこで、ここでは、曲の感じを体の動きで表したり、伴奏をよく聴いて拍の流れを体全体で感じ取ったりして、友達と関わりながら遊び歌で遊ぶ楽しさを味わえるようにする。

最後に、「かくれんぼ」を取り上げる。この曲は、子どもがかくれんぼをして遊ぶときの会話が歌詞になっており、様子を想像しながら歌うのに適している。そこで、ここでは、問いと答えの部分に着目し、歌詞の表す様子と強弱を関連付けて、様子に合わせて強弱を工夫して表現する楽しさを味わえるようにする。

これらの学習を通して、子どもたちは、「問いと答え」、「速さ」、「リズム」、「強弱」といった音楽を形づくっている要素の働きや音楽の特徴について他者と共有・共感しながら、音楽によって喚起されるイメージや感情をもとに、表したい音楽表現や楽曲がもつ楽しさを明らかにし、見通しをもって声を合わせて歌ったり、楽曲を鑑賞したりすることで、身の回りの様々な音楽に親しもうとする態度を養うことができる。

このような学習を積み重ねることで、感性が育まれ、協働する喜びを味わい、多様な価値を尊重する態度を養い、豊かな情操が培われていく。

(3) 子どもの実態（調査対象 2年ろ組 男子18名 女子17名 計35名）

本学級の子どもたちの実態は次の通りであった。

① みんなで一緒に歌ったり，体を動かして歌ったりすることは好きですか。
はい(33) いいえ(2)
② その理由を教えてください。(複数回答)
【「はい」の理由】 ・体を動かすのが好きだから。(11) ・楽しいから。(10) ・面白いから。(5) ・友達と仲良くできるから。(4) ・気持ちがいいから。(2) ・歌を覚えやすいから。(1) ・嬉しい気持ちになるから。(1) 【「いいえ」の理由】 ・きれいに歌えないから。(2)
③ みんなで一緒に歌うときに，どんなことに気を付けますか。(複数回答)
・きれいな声で歌う。(9) ・曲に合う声の大きさで歌う。(7) ・明るい表情で歌う。(7) ・楽しい気持ちで歌う。(7) ・みんなと声をそろえて歌う。(6) ・リズムに気を付ける。(5) ・姿勢をよくする。(2) ・歌詞を間違えないように歌う。(1) ・口を大きく開ける。(1)
④ 「ひらいた ひらいた」を様子にあった歌い方で歌いましょう。
・「ひらいた」より「つぼんだ」を小さく歌える。(28) ・「ひらいた」と「つぼんだ」に強弱の変化がつけられない。(7)

①②から，手遊び歌や体を動かして歌うことの楽しさを多くの子どもが感じている。その要因として，一緒に活動することの楽しさや面白さ，そのことから得られる心理的な満足感が多く挙げられた。一方「好きではない」と答えた子どもは，きれいな声で歌えないことを理由として挙げている。これは，楽しく歌うためには，体を動かすだけでなく正しい音程や声の大きさで歌うといった技能面を重視していることが要因であると考えられる。

③から，歌を歌う際に，発声や声の大きさ，リズム，表情に着目している子どもが多いが，歌詞に着目している子どもは少ない。これは，正しい旋律やリズム，声の大きさに気を付けて歌うことが目指す表現になっており，歌詞が表す様子やそこから得られるイメージと歌い方を関連付けて考えることができていないことが要因であると考えられる。

④から，多くの子どもが「ひらいた」「つぼんだ」といった様子に合うように強弱に変化をつけて歌うことができていないが，すべて同じ音量で歌う子どももいた。これは，歌詞の意味を理解できていても，正しい旋律や歌詞で歌うことに一生懸命で，強弱に変化をつけられなかったり，強弱に変化をつけているつもりでも，十分に表現できていなかったりすることが要因であると考えられる。

(4) 指導上の留意点

ア 課題把握・課題追求Ⅰの過程では，互いの声を意識しながら歌う楽しさを味わえるようにする。

そのために，「問いと答え」になっている歌の部分と話し言葉の部分に焦点化し，「問いと答え」の仕組みの面白さを味わいながら，ペアやグループで分かれて歌う活動を設定する。

イ 課題追求Ⅱの過程では，互いの声や伴奏をよく聴きながら声を合わせて歌う楽しさを味わえるようにする。そのために，伴奏の音量に合わせて声の大きさを変えて歌ったり，速さを変えて歌ったりしながら，「速さ」や「強弱」の要素に焦点化し，変化を楽しみながら声を合わせて歌う活動を設定する。

ウ 課題追求Ⅲの過程では，歌詞が表すかくれんぼの様子をみんなの歌声で表現する楽しさを味わえるようにする。そのために，「問いと答え」になっている「もういいかい」「まだだよ」の部分に着目して，おに役と隠れる役の動きと強弱の変化を関連付けて捉え，強弱を工夫しながら声を合わせて歌い，声の大きさを比較しながら，目指す音楽表現を追求する活動を設定する。

エ まとめの過程では，みんなで声を合わせて表現した音楽によって，より楽しく音楽表現ができるようになったことを味わわせるようにする。そのために，学習前と学習後のイメージや気持ちがどのように変化したのか，背景となる音楽活動をもとに振り返らせる活動を設定する。

3 目 標

- (1) 互いの歌声や伴奏の響きに関心をもち、拍の流れにのって表現しようとすることができる。
- (2) 音楽を「問いと答え」「速さ」「リズム」「強弱」といった視点で捉え、様子や気持ちに合った歌い方を工夫し、自分なりに音楽の楽しさを見いだしたりすることができる。
- (3) 友達の声や伴奏を聴きながら、友達と一緒に声を合わせて歌うことができる。

4 指導計画（全6時間）

過程	思いや意図を連続・発展させる心の高まり	教材	主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
課題把握	歌といろいろな国の言葉が交互に出てきて、お話をしているみたいだね。	「メッセージ」 ①②	ともだちのこえをよくきいてうたおう。 ○ 範唱を聴いて、感じたことや気付いたことを話し合う。 ○ 歌の部分と話し言葉の部分に分かれ、声を合わせて歌う。	○ 歌の部分と合いの手部分の問いと答えになっていることに気付かせるために、拡大楽譜上で色をつけて仕組みを捉えやすくする。 ○ 互いの声を意識させるために、グループやペアで歌の部分と話し言葉に分かれて歌わせる。
課題追求①	手拍子を一緒に合わせながらみんなで歌うと楽しいね。	外国のあそび歌 ③④	おんがくにあわせて いろいろなくにのあそびうたであそぼう。 ○ 「ロンドンばし」、「小犬のビンゴ」を鑑賞し、感じたことや気付いたことを話し合う。 ○ 歌詞に合う遊び方を話し合う。	○ 外国の遊び歌に親しみをもてるようにするために、「ロンドン橋」と「小犬のビンゴ」の遊び歌の様子を映像で鑑賞させる。 ○ 要素の働きを共有・共感しながら遊び歌で遊ぶために、「もっと楽しい遊び歌にするには、どんな音楽のまほうをかけたらいかな。」と問い、「強弱」や「速さ」を変化させて伴奏する。
課題追求②	「速さ」や「強弱」のまほうをかけると、もっと楽しくなりそうだね。		おんがくにまほうをかけて、もっとたのしいあそびうたにしよう。 ○ 手拍子をしながら歌ったり、強弱や速度を変化させた伴奏に合わせて歌ったりする。	○ かくれんぼをするときの言葉が歌詞になっていたたり、おに役と隠れる役のやりとりが「問いと答え」になっていたりする楽曲の特徴を共有・共感させるために、「どんなひみつがかくれているのかな。」と問い、感じたことや気付いたことを板書する。
課題追求③	かくれんぼの時の言葉が歌詞になっていて面白いな。		このうたには、どんなひみつがかくれているかな。 ○ 範唱を聴いたり歌詞を読んだりして、感じたことや気付いたことについて話し合う。 ○ 感じたことや気付いたことをもとに、音楽表現への思いをもつ。	○ 要素を視点として音楽を捉えさせたり、意見交流させたりするために、「表したい音楽表現にするためには、どんな音楽のまほうが使えるかな」と問う。
	「もういいかい」、「まだだよ」の部分に、音楽のまほうをかけて、もっとかくれんぼの様子が現れるようにしたいな。	「かくれんぼ」 ⑤⑥（本時）	おにとかくれるひとのようすがあらわれるように おんがくにまほうをかけよう。 ○ おに役と隠れる役に分かれて、強弱に変化をつけた歌い方をためし、話し合う。 ○ 相互発表・鑑賞をする。 ○ 学習の振り返り、まとめる。	○ 要素の働きを共有・共感しながら表したい音楽表現を追求させるために、強弱の変化によってイメージがどのように変化するのか、大きさの異なるアイコンカードで音の大きさを視覚的に捉えやすくする。 ○ 課題追求を通して、より楽しく音楽表現ができるようになったことを味わわせるために、みんなで表現した音楽によって、どんな気持ちに変化したのか、学習前に感じていた気持ちを板書で示し、比較させる。
まとめ	音楽のまほうをかけて、みんなで声を合わせて歌うと前よりももっと楽しく歌うことができたよ。		・ おんがくのまほうをかけてうたうと、もっとたのしくうたえるようになったよ。 ・ みんなでこえをあわせてたのしくうたうことができたよ。 ・ もっといろいろな曲におんがくのまほうをかけてうたいたいな。	○ 次時以降も楽しく音楽活動に取り組めるようにするために、「より楽しくなったのは、どんな学習をしてきたからなのか。」と問い、気持ちの変化の背景にある音楽活動を想起させながら自分と音楽との関わり方を振り返らせる。

5 本 時 (6 / 6)

(1) 目 標

歌詞が表す様子や歌声を合わせることに関心をもち、音楽を「問いと答え」、「強弱」といった視点で捉え、様子に合った歌い方を工夫することができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時では、かくれんぼの様子を表現するために、「問いと答え」の部分に着目し、「強弱」の変化による働きを共有・共感しながら、おに役と隠れる役の動きと「強弱」とを関連付けて音楽を捉えることができるようにする。その際、1回目の「まだだよ」と2回目の「まだだよ」のように比較対象を明確にし、実際に歌いながら声の大きさを聴き比べる活動を取り入れる。さらに、学習を通して音楽や自分の気持ちがどのように変化したのかを、その背景にある音楽活動をもとに振り返らせることで、楽しく音楽とかかわったことを実感できるようにする。

(3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
課題 把握	1 「かくれんぼ」を歌い、曲の特徴 や表したい音楽表現を想起する。 かくれんぼの様子を表す歌だったね。 みんなの歌でかくれんぼの様子を表 したいな。	(分) ↑	○ 思いをもって楽しく音楽活動に 取り組ませるために、「かくれんぼ には、どんなひみつが隠れていたか な。」と問い、前時に感じたり気付 いたりした楽曲の面白さや、表した い音楽表現を想起させる。
	2 「もういいかい」「まだだよ」のや りとりを試しに歌い、話し合う。 楽しいかくれんぼの様子をみんなの歌 でもっと表したいな。	12	○ 「もういいかい」「まだだよ」の部分 に焦点化するために、「かくれんぼの様 子をより表すためには、どの部分を工夫 すればいいかな。」と問う。
	3 本時の学習について話し合う。 おにとかくれるひとのようすがあらわれ るように おながくにまほうをかけよう。	×	○ 要素を視点にして課題追求をさせる ために、試しに「もういいかい」「まだ だよ」のやりとりを歌い、表したい音楽 表現になっているか振り返らせ、「どん な音楽の魔法をかければよいかな。」と 発問し、課題を設定する。
課題 追求	4 みんなで声を合わせて歌い、表し たい音楽表現を追求する。 おに役 比較の視点:「強弱」 隠れる役 「もういいかい」 「まだだよ」 (1回目) 比較 「もういいかい」 「まだだよ」 (2回目) 比較 「もういいかい」 「もういいよ」 比較 速くに行く さらに 速くに行く 強弱の変化を工夫して歌うと、おに 役と隠れる役の様子が表せる。	28	○ おに役と隠れる役の動きを捉え させるために、おに役と隠れる役の ペープサートを用いて、隠れる役が 遠くに離れていく様子を視覚的に 捉えやすくする。 ○ 強弱の比較対象を明確にするた めに、「小さく歌う」と考えた子ども に「どこと比べて小さく歌うのか な」と発問する。 ○ 強弱の働きについて共有・共感し ながら表したい音楽表現を追求さ せるために、大きさや色の異なるア イコンカードと歌詞を対応させて 示し、比較対象や強弱の変化を視覚 的に捉えさせながら活動する場を 設定する。
表現の 工夫			○ 追求した音楽表現によって自分 の気持ちが変化したことを実感さ せるために、最初の気持ちと学習し た後の気持ちを、相互発表の際の音 楽をもとに比較させ、振り返らせる 活動を設定する。その際、友達の表 現のよかった点で鑑賞させ、多様な 価値観に気付けるようにしていく。
相互発 表・ 鑑賞	5 相互発表・鑑賞をする。 6 みんなで声を合わせて歌い、学習 のまとめをする。 ・ 声の大きさ(強弱)を変化させて 歌うと、かくれんぼ(おに役と隠れ る役)の様子がより表せたよ。 ・ 他にもたくさんの音楽のまほうを 使ってみんなで歌いたいな。	5	○ 今後の学習でも表したい音楽表 現の到達に向けて活動できるよう にするために、気持ちが変化した背 景となった活動も一緒に振り返ら せ、音楽に楽しくかかわっていくこ との楽しさを実感させる。
まとめ		↓	